

第 602 回 新潟放送番組審議会 議事録

審議番組

テレビ番組

「中越地震 10 年 N スタにいがたスペシャル 歩みあしたへ・・」



平成 26 年 11 月 21 日

BSn新潟放送

第602回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成26年11月21日(金)午前11:00~

2. 開催場所 新潟放送本社 6F会議室

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	佐々木広介	委員	正道かほる
委員	古賀豊	委員	小島良子
委員	佐藤元		

○委員側欠席者

委員	高井盛雄	委員	行形貴子
委員	佐藤明		

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
常務	水田義雄	営業局長	斎藤和利
報道制作局長	五十嵐幹史	ラジオセンター長	鍵富徹

〈説明員〉報道制作局情報センター
番組プロデューサー 吉井秀之

事務局

事務局長	小原弘志	(社長室長)
事務局員	増山由美子	(考查広報部長)

4. 議題

・審議事項

テレビ番組

「中越地震10年 Nスタにいがたスペシャル 歩みあしたへ・・」
放送日時 10月23日(木)午後6時15分~6時51分

5. 議事の概要

～番組審議委員の主な意見・質問～

- 当日のメモリアルイベントなど、バランスよく構成されていた。
- 番組全体が落ち着いていて、語り口なども良かった。災害を振り返るという意味で心にしみる内容だった
- 災害の記憶を風化させないために映像資料は大切なものの。報道機関は映像資料を伝達する拠点であることを意識して、今後も取り組んでほしい。
- 伝えたい情報が多すぎて、少々あわただしい印象を受けた。
- 年配の女性のインタビューで、前向きなコメントの反面、表情に淋しさが垣間見えた。映像の力・生放送のを感じた。
- 発災当時ラジオとテレビが連携して伝えていた情報があったと記憶している。そういった内容も織り込んだらよかったのではないか。
- 当時2歳で、がれきの中から救出された少年への取材について
 - ・ インタビューで、今までのことよりこれから目標や夢などを中心に聞いていた姿勢に好感が持てた。
 - ・ どこの放送局も取り上げていたが、まだ中学生の彼にとってどんな影響があるか考えなくてはいけないと思う。
- 被災した方たちの「移転」問題については、東北の復興の方向性を示すためにももっと掘り下げる必要があるのではないか。
- 地元メディアとして、震災復興報道の原点を常に忘れず、これからも報道を続けてくれるよう期待する。

～番組担当プロデューサーから～

- 貴重なご意見をいただきありがとうございました。
- 地震から10年を迎えた直後の被災地を生で伝えることに主眼を置いて、4か所の被災地から中継を入れた。
 - 当時2歳だった少年については、今までお願いしても取材に応じてもらえなかつたが、節目ということで保護者が許可してくれたのだと思う。記者が保護者の元に通い、信頼を得て春の中学校入学式から取材させていただいた。インタビューで地震の記憶を彼に聞くかどうか熟慮の上、本人から話さない限りこちらからは聞くことはしないと決めた。そして、本人ではなくずっと見守ってきた親戚の方に聞くという取材方法を選択した。今後については、無理はしないが、継続して取材していこうと考えている。
 - 中越地震は、日本の大部分を占める中山間地で起きた災害。どこにでも起こりうる災害であることを全国に伝え、復興の様子を発信していくことは、災害復興の在り方を模索する上で必要なことと考えている。
 - 「歩みあしたへ」というタイトルをつけたが、明日につながっていく報道をこれからも続けていきたい。